

今週（11月30日から12月4日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週初11月30日は月末であったため、一部に調達を控える参加者が見られたものの、レートの下幅は僅かなものにとどまった。12月に入ってからも取り手の調達意欲は堅調であった。週末4日は、邦銀・証券業態からの調達で▲0.04～▲0.01%と若干調達レンジが切り上がった。無担保コールO/N加重平均レートは、週を通して概ね▲0.03%前後での推移が続いた。ターム物は年内エンドのショートタームで▲0.025～▲0.018%のレンジで推移した。今週の日銀当座預金残高は、国債の発行要因のほか税・保険料揚げの要因など揚げ要因が多く、480兆円台後半から470兆円台後半に減少した。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは1日に2W物・20,000億円がオファーされ、1,851億円（期落ち額1,404億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は週を通して安定的に推移した。出合い水準は概ね▲0.085～▲0.070%程度となった。

SC個別銘柄では2Y410～419、5Y136～145、10Y345～360、20Y167～173、30Y59～68、40Y10～13などのカレント近辺の銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国買入オペが市場予想を上回る3兆円でオファーされたことで、週前半はオペ見合いの出合いが見られたものの、週後半は閑散なマーケットとなった。月中旬に入札が集中することを警戒してか、3M物は▲0.090～▲0.085%、6M物は▲0.098～▲0.085%とやや軟調に推移する一方で、1Y物は対照的に▲0.140～▲0.130%と堅調な推移となった。

1日に実施された短国買入オペは、市場予想を上回り、前回から5,000億円増額の30,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.005%、按分落札利回較差+0.003%と、やや弱めの結果となった。

4日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.090～▲0.087%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.0889%、按分落札利回▲0.0837%と、やや軟調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、入札と同水準で推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、週を通して入札の案件数が少なく、小型発行を中心とする閑散なマーケットとなった。償還総額1,000億円程度に対し、発行総額は2,000億円程度となった。例年であれば、配当金・賞与・税対応等のニーズにより発行が盛んになる時期ではあるが、今年に関してはそれが見られていない。市場残高は24兆6,000～7,000億円程度と、先週対比では若干の増加となっている。発行レートに関しては、年内・年越えを問わず新型コロナオペの担保ニーズにより積極的な買いが入っているため、マイナス圏での発行となっている。発行量が少なく、年度末を超えるロングターム物では過去最低レートでの決着も見られた。

2日にはCP等買入オペが6,000億円で実施された。今月は6,000億円で3回オファーされる予定となっており、発行水準がかなり低下している中、前回からのインターバルが短いこともあって、レートは低下することが予想されていた。結果は平均落札レート▲0.031%・按分レート▲0.039%と、前回（平均▲0.027%・按分▲0.034%）比で低下はしたものの、低下幅は限定的であった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/30 (月)	26,433.62	0.025	103.87	△ 0.032	△ 0.077	4,868,000
12/1 (火)	26,787.54	0.015	104.26	△ 0.030	△ 0.080	4,838,500
12/2 (水)	26,800.98	0.020	104.34	△ 0.029	△ 0.079	4,766,300
12/3 (木)	26,809.37	0.020	104.45	△ 0.030	△ 0.080	4,783,400
12/4 (金)	26,751.24	0.020	103.80	△ 0.030	△ 0.077	4,773,900

来週（12月7日から12月11日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
12/7 (月)	11月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 10月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)			10月の米消費者信用残高
12/8 (火)	10月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 10月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 7-9月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 10月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 11月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	5Y 25,000億円 12/9発行		7-9月期のユーロ圏GDP確報値
12/9 (水)	10月の機械受注統計(内閣府 8:50) 11月のマネーストック(日銀 8:50) 10月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB6M 38,000億円 12/10発行	交付税借入 11,000億円 12/18借入	10月の米卸売売上高
12/10 (木)	11月の企業物価指数(日銀 8:50) 10-12月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)	20Y 12,000億円 12/11発行		ECB定例理事会(金融政策発表) 11月の米消費者物価指数 11月の米財政収支
12/11 (金)		TB3M 73,000億円 12/14発行	エネルギー 対策借入 6,000億円 12/21借入	11月の米生産者物価指数 12月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/7 (月)	▲ 500	▲ 4,600	▲ 5,100	国債買入 CP買入 社債買入 国債補充		5,600 6,000	11,400	6,300	TB3M発行▲75500償還70000
12/8 (火)	▲ 2,000	16,000	14,000				0	14,000	
12/9 (水)	▲ 2,000	▲ 26,000	▲ 28,000				0	▲ 28,000	5Y発行▲25000
12/10 (木)	▲ 3,000	▲ 29,000	▲ 32,000	社債買入		3,000	3,000	▲ 29,000	TB6M発行▲38000償還6400
12/11 (金)	▲ 3,000	3,000	0				0	0	20Y発行▲12000 交付税借入▲11000期日21000
週間合計	▲ 10,500	▲ 40,600	▲ 51,100	—	▲ 200	14,600	14,400	▲ 36,700	

12/7は日銀予想、12/8以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新型コロナに関連する払い要因があるものの、国債・短国の発行要因が多い。加えて銀行券の発行要因もあるため、資金需給的には揚げ要因が多い。引き続き資金調達意欲の強い堅調な展開が予想され、無担保コールO/N物加重平均レートは横ばい、もしくは僅かに上昇する展開を予想する。また、9日には「2020年12月積み期間に適用する基準比率」が発表される予定となっている。貸出増加支援オペ・新型コロナオペの金額次第ではあるが、基準比率(現在15.0%)は引き下げられ、10.0~11.0%程度になると予想する。レポ市場は、積み期間終盤に入り、レートの動向が注目される。GC T/Nは▲0.10%を上回って推移することが予想される。短国市場は、9日に6M物、11日に3M物の入札が実施予定となっている。8日に予定されている短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、特段のイベントは無い。市場残高が伸び悩む中、下限レートを探る展開が見込まれる。

主要なイベントは、8日の7-9月期のGDP2次速報、7-9月期のユーロ圏GDP確報値、10日のECB定例理事会などが挙げられる。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。